

■【トピックス】

日本タンカー被弾！



ホルムズ海峡で日本のタンカーなど2隻が、何者かに攻撃されました。幸い人的な被害はありませんでした。米国とイランの緊張関係が高まる中、日本の安部総理がイランを訪問中に起きました。今のところイランは全面否定しています。

この事件を受けて原油価格が高騰しています。米国はイランを非難していますが、イランほどの大国がそこまで愚かであるとは考えられません。戦争を欲する勢力の謀略かもしれませんね。

■【今月のキーワード】

「高齢社会における資産形成・管理」

金融庁の金融審議会の市場ワーキング・グループが令和元年6月3日に公表した報告書が「高齢社会における資産形成・管理」です。報告書の「不足額約5万円が毎月発生する場合には、一中略一、30年で約2,000万円の取崩しが必要になる」という記述が問題になりました。報告書の目的は、高齢者への投資の勧めとそれに対する金融機関の対応です。そもそも金融審議会とは、内閣総理大臣の諮問に応じて、金融制度の改善など国内金融の重要事項について調査・審議を行う組織で、平成10年(1998年)に金融庁へ設置されました。

■【ビジネス・アイ】

老後資金！

社長 「老後の資金が年金では全然足りなくて自助努力で2,000万円貯めろという報告書が金融庁から出して批判的になっているね」

花野 「そうですね。たぶん多くの人は実際に報告書を読まずに批判していると思いますが、実際に報告書を読んでも年金制度についてはほとんど触れられていません。金融庁の報告書ですから当たり前といえば当たり前ですがね」

社長 「そうなんだ。それじゃ何が書いてあるかな？」

花野 「端的にいうと、金融資産を保有している高齢者、特に60歳代の退職世代の人々に投資を勧めていることですね」

社長 「年金とは関係ないんだね」

花野 「そうなんです。そもそも金融資産を保有していない人は対象としていないんですよ」

社長 「そうすると、世間の議論がズレていることになるね。でも何でこの時期に、こんな報告書を出したんだろうかなあ？」

花野 「マイナス金利で経営が厳しい金融機関を支援する側面があるかと思います。報告書でも金融機関に対して高齢者をサポートする対応をするようにとの記述もありますからね」

社長 「そうすると、最近話題になっている高齢者の貧困問題とも関係ないんだね」

花野 「報告書を読む限りそうですね。むしろ認知症になる前に投資を始めるとも読めますね」

社長 「認知症のところだけは気になるね」

■【今月の1冊】

『移民クライシス』

出井康博 著
角川新書 ¥920

経済的な奴隷、この本が描いているのは現代の奴隷制度の話です。悲しいことですが、すべて今の日本で実際に起きていることです。

毎朝届く朝刊は、日本語が話せない留学生が配っています。彼らは莫大な借金で縛られた出稼ぎ労働者です。この国の便利さの陰で、人知れず過酷な労働に従事している異国の若者がいます。見たくない現実がこの本に書かれています。



■【編集後記】

6月11日に開催された日本公認会計士協会東海会の定期総会をもって15年間連続で務めた役員を退任しました。最後は副会長でした。支えていただいた方々に感謝です。これからは、一会員として会務に協力していきたいと思えます。まずは、ひと段落です。

『経営のセカンド・オピニオン』vol.148（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2019.7.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://hanano-cpa.a.la9.jp/>